

第19回 B I R D 脳科学セミナー

うつ病バイオマーカーとしてのアミノ酸 および関連分子の検討

演者: 小川 眞太朗 先生

国立精神・神経医療研究センター神経研究所 疾病研究第三部 研究員

日時: 2019年 3月25日(月) 15:00～

場所: 野田キャンパス 講義棟 K402教室

大うつ病性障害（以下うつ病）は、全世界での時点有病率が4.4%と高く、個人の負荷や社会的損失も大きな疾患です。しかし、その病態機序が不明であることもあり、日常臨床においてうつ病の診断や症状の評価に実際に使うことができる生化学的なマーカー（分子マーカー）は今のところありません。このことは早期の診断や治療の妨げとなっており、新しい治療薬開発のための障壁にもなっています。私たちはこれまで、中枢神経系の機能と密接に関連し、神経伝達物質の前駆体、あるいはそのものが神経伝達物質として機能する、アミノ酸および関連分子に着目し、うつ病のバイオマーカーとしての検討を行ってきました。今回は、うつ病患者での末梢血や脳脊髄液中におけるアミノ酸関連分子の濃度の変化や、先行研究のメタアナリシスについてお話をします。現在までの結果から、アミノ酸および関連分子が、うつ病のバイオマーカーとなる可能性が示唆されてきました。

本セミナーは学部生、大学院生の聴講も歓迎します。

主催: 脳学際研究部門 (Brain Interdisciplinary Research Division)
(東京理科大学における脳研究の学際的な連携基盤の構築を目指し2016年度に発足。
学内の理一・工一・基礎工・理工・薬学部・生命研および学外の研究機関から構成される。)

世話人: 薬学部薬学科 山田大輔 6431

yamadada@rs.tus.ac.jp

